

# エフピコ

サステナビリティ アクション ガイド



# エフピコグループ 中長期環境目標 FPEA2.0

01

事業活動での  
CO<sub>2</sub>排出量

**31%削減**

2031年3月期までに  
2020年3月期比

02

エコ製品による  
CO<sub>2</sub>排出削減量

2031年3月期までに

**27.2万t**

2020年3月期比170%増

03

事業活動での  
CO<sub>2</sub>排出量

2050年度までに

**実質0**

脱炭素社会の実現に向けたサステナビリティの観点から  
CO<sub>2</sub>排出量の中・長期目標を策定しました。新たな目標値として、

**2031年3月期までにCO<sub>2</sub>排出量(Scope1・2)31%削減**

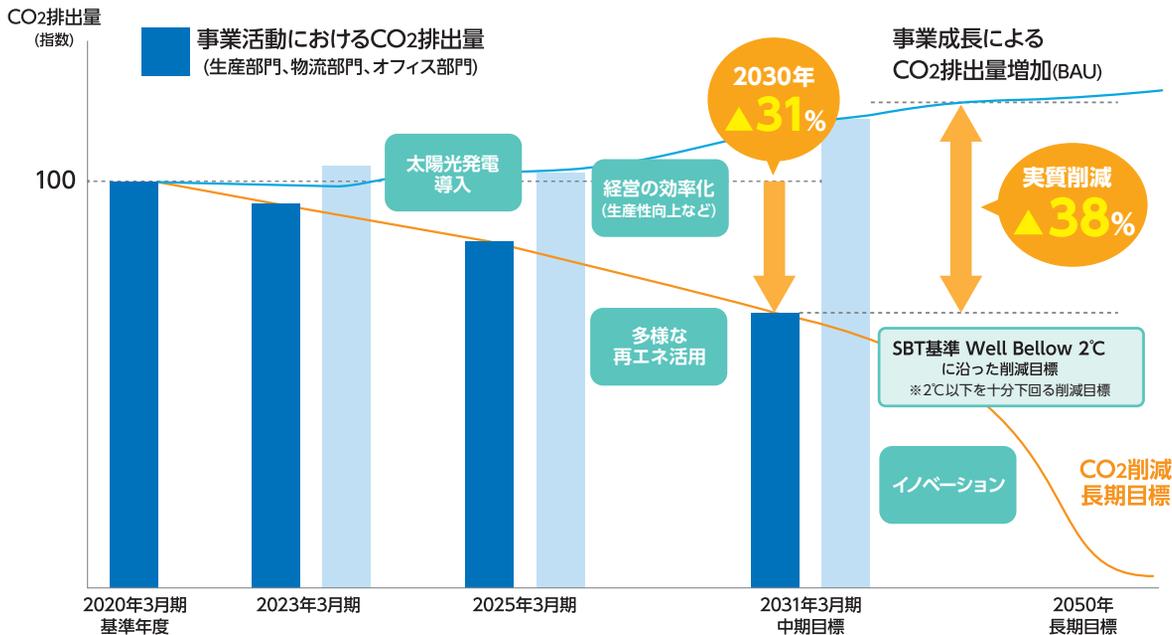
**2050年度までにCO<sub>2</sub>排出量(Scope1・2)の実質ゼロ**

を目指します。

※2022年3月、エフピコは気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明しました。



# エフピコグループ カーボンニュートラルまでの 温室効果ガス (Scope 1・2) 削減ロードマップ



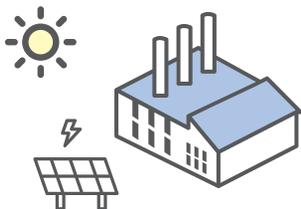
※Scope1は、事業者自らによる温室効果ガスの直接排出。Scope2は、他社から供給された電気、熱、蒸気の使用に伴う間接排出。  
\*TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォーク)提言に賛同し情報開示しています。

## 環境マネジメントシステムの推進

バリューチェーン全体を有機的に連動させ、透明化、見える化、効率化、そして環境に配慮した施策を推進し自社及びバリューチェーン全体でのCO<sub>2</sub>削減を目指します。

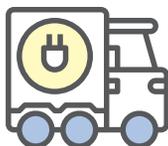
- 開発部門 サプライヤーと協働し、製品のCO<sub>2</sub>見える化を推進。軽量化・薄肉化によりCO<sub>2</sub>削減を行います。
- 生産部門 生産工場での省エネ機器導入、高効率化、再エネ導入により、使用するエネルギー削減を行います。
- 物流部門 共同配送の実施、輸送効率のアップ、ドライバー教育により燃料使用量の削減を行います。
- オフィス部門 オフィスでの電気・紙・ごみの削減を行い、従業員家庭での環境活動実践を推進します。
- 販売部門 リサイクル拠点・回収量をさらに増加。リサイクル製品を拡販し、CO<sub>2</sub>削減に貢献します。
- SCM部門 需要地生産を拡大し、納品先への効率的な配送を実現、流通コストの最適化とCO<sub>2</sub>削減を行います。

### 生産部門



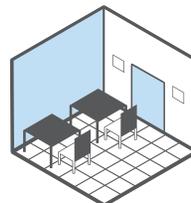
- 自家消費用太陽光発電設備の導入
- 調達電力の再生可能エネルギー化

### 物流部門



- 配送・積載効率のアップ
- 自社便率98%

### オフィス部門



- 照明などのLED化
- 東京本社RE100% (2022年7月～)

## エコ製品販売によるCO<sub>2</sub>削減効果を増加させます

2020年 3月期

エコ製品販売による  
CO<sub>2</sub>削減効果

16.0万トン < 16.8万トン

生産部門CO<sub>2</sub>排出量

エフビコのCO<sub>2</sub>排出量

エコ製品販売による  
CO<sub>2</sub>削減効果

16.0

21.5  
物流部門 4.5  
生産部門 16.8  
オフィス部門 0.2

エコ OPET  
(販売量: 2.0万t)

4.2

エコ APET  
(販売量: 5.4万t)

8.1

エコトレー  
(販売量: 1.9万t)

3.7

単位: 万t

2025年 3月期

エコ製品販売による  
CO<sub>2</sub>削減効果

23.7万トン ↔ バランス 23.7万トン

生産・物流・オフィス  
CO<sub>2</sub>排出量

23.7

23.7

PET回収原料  
配合比率増加

5.7

0.2

バランス

12.7

4.5

5.3

19.0

単位: 万t

### 目標達成に向けての取り組み

使用済みトレー・ペットボトルの  
回収量増大

エコAPET・エコOPET製品の  
回収原料比率向上

再生可能エネルギーの積極導入

ケミカルリサイクルの導入検討

もっと詳しく!



左のQRか下記URLより  
動画「リサイクルでカーボンオフセット宣言」をご覧ください  
[https://www.fpcو.jp/esg/environmenteffort/climate\\_change.html](https://www.fpcو.jp/esg/environmenteffort/climate_change.html)

使用済みトレー  
ペットボトル

太陽光発電再生可能  
エネルギーの積極利用

再生原料比率アップ

回収量  
アップ

37%

30%

41%

30%

現在のCO<sub>2</sub>削減効果 17万トン/年間

エコトレーのCO<sub>2</sub>排出削減効果

エコAPET エコOPET製品のCO<sub>2</sub>排出削減効果

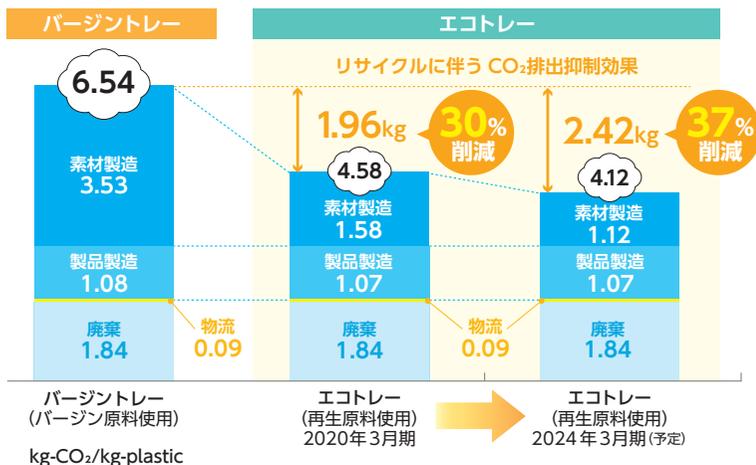
# リサイクルの深化と進化

## 再生原料製造工程のCO<sub>2</sub>排出量ゼロへ

従来トレーの製造に比べエコトレーはCO<sub>2</sub>排出量が30%削減されます。  
さらに関東、中部、福山の全国3つのリサイクル工場を太陽光発電(100%再生可能エネルギー)で稼働させることでCO<sub>2</sub>削減効果を現在の30%から37%へ引き上げます。

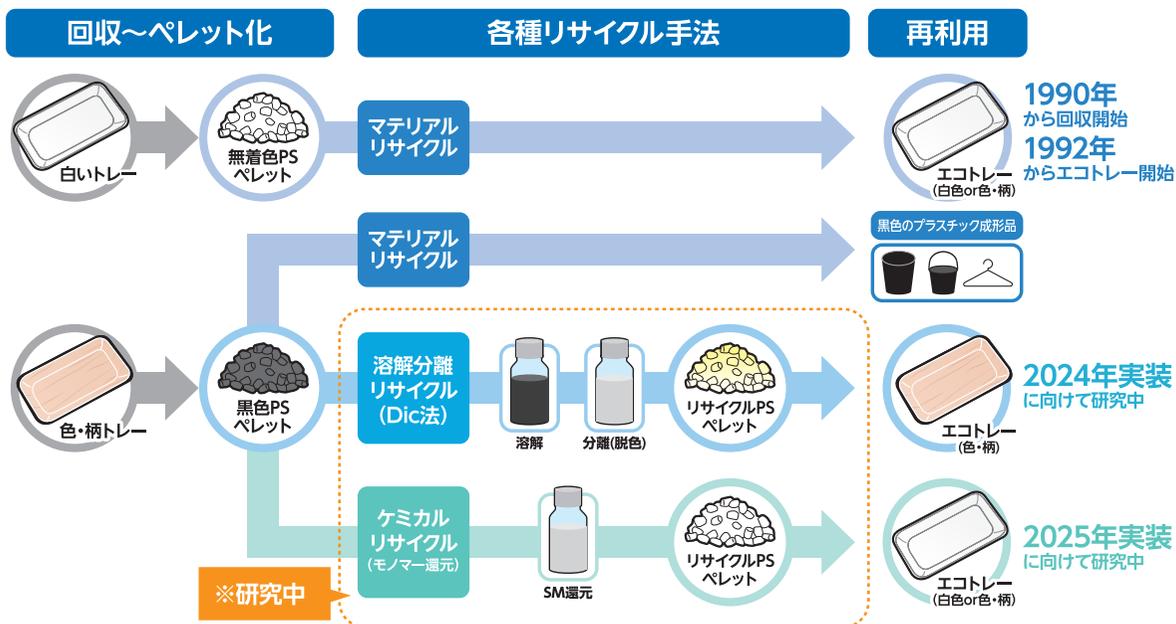


CO<sub>2</sub>排出削減効果  
**30% >>> 37%**



## 「ポリスチレンの完全循環」を目指して研究中

>>> 色柄トレーもトレーに ケミカルリサイクルとマテリアルリサイクルの併用でPSリサイクルを推進。



## ステークホルダーの皆様とともに

エフピコでは、循環の輪を共に回してくださる消費者、流通関連企業、環境関連団体、障がいのある人の社会参加に関わる方々など全てのステークホルダーの皆様に対し、当社の取り組みを理解し賛同していただくために様々な情報発信と活動を行っています。

### 工場見学 全国にあるリサイクル工場で工場見学を行っています。



#### ★見学可能施設(事前予約制)

関東リサイクル工場／中部リサイクル工場／福山リサイクル工場

※お申し込みは、各工場のページよりお願いいたします



### オンライン見学 エフピコではオンラインによる親子工場見学もを行っています(夏休み期間 ※日時限定)



スーパーマーケットに設置されている回収ボックスに入れていただいた食品トレー・透明容器がどうリサイクルされているか、クイズや動画を交えて楽しくわかりやすくご紹介いたします。身近な環境問題について親子で話し合う機会にいただければ幸いです。



### 出前授業

主に小学校を対象にエフピコの社員が学校に出向いてリサイクルや環境に関する授業を行っています。リサイクル工場に来ることが難しい児童・生徒さんたちと直接コミュニケーションを取ることができ、先生方からも有意義なプログラムと好評です。



## ◎ お客様との協働による環境保全活動

スーパーマーケットの店舗内スペースなどで開催される環境をテーマとした催事を行っています。エフピコならではの使用済み容器回収によるCO<sub>2</sub>削減をアピールする展示など、リサイクルを実践している企業だからわかる具体的な効果とその数字を提示して来場者に環境活動への積極的な参加を呼び掛けています。エフピコ製品が使われているスーパーマーケットという環境での活動が相乗効果を生んでいます。



### 》》》 取り組みの成果

1990年にエフピコ方式のリサイクルを始めました。6店舗から始めた使用済み容器の回収拠点も、2022年には10,300ヶ所以上になりました。天然資源を枯渇させないため、地球環境を守るため、エフピコではリサイクル事業による資源の活用を推進しています。

#### 発泡スチロール製トレイ



#### 透明容器



#### ペットボトル



## 社外団体・組織との取り組み

エフピコは、持続可能な社会と環境を事業の中核として位置づけ、社外の団体・組織とともにさまざまな活動に取り組んでいます。

#### ● エコ・ファースト制度



#### ● CLOMA

Japan Clean Ocean Material Alliance  
クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス



#### ● 循環経済パートナーシップ





エフピコ環境基金  
The FP Corp. Environment Fund



詳細はWebサイトで  
ご覧いただけます。



海洋プラスチックごみ問題及び気候変動をはじめとする環境問題は、様々な要因が複雑に絡み合い大きな問題となっています。エフピコでは1990年に6店舗のスーパーマーケットの店頭で使用済み食品トレー回収ボックスを設置して、「トレー to トレー」のリサイクルをスタートさせ、拠点は10,300ヶ所を超える(2022年12月)までになりました。

皆様のお陰で容器包装リサイクル法に基づく分別・収集の仕組みと合わせて、使用済み食品トレーを資源として有効利用する社会インフラとして定着しております。

更に、近年の地球規模の環境問題に対してさまざまな角度から活動をされている団体を助成すべく、2020年3月に「エフピコ環境基金」を創設致しました。環境問題をテーマとする活動への当基金による助成を通じて、持続可能な社会の構築を地域の皆様とともに進めて参りたいと考えております。

